

平成 13 年度 事業報告書

平成 13 年度 事業報告
同 収支計算書
同 貸借対照表
同 財産目録
同 正味財産増減計算書
平成 14 年度 事業計画
同 収支予算書
監査報告
平成 13 年度 役員および委員等

社団法人日本油化学会

平成 13 年度事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 13 年度末	平成 12 年度末	増 減
1 級	13 社	13 社	0 社
2 級	9 社	9 社	0 社
3 級	18 社	19 社	- 1 社
4 級	23 社	23 社	0 社
5 級	96 社	96 社	0 社
計	159 社	160 社	- 1 社

1.2 個人会員

種 別	平成 13 年度末	平成 12 年度末	増 減
普通会員	1778 名	1902 名	- 124 名
学生会員	80 名	85 名	- 5 名
計	1858 名	1987 名	- 129 名

1.3 名誉会員 (16 名)

阿河 利男 阿部 芳郎 大城 芳樹 荻野 圭三 北原 文雄 小森 三郎 櫻井 洸
佐々木恒孝 高木 徹 豊口 満 西 一郎 橋本哲太郎 早野 茂夫 松本 太郎
森 昭 渡辺昭一郎

1.4 会費収入の推移

2 会務

2.1 総会

第 47 回通常総会を、平成 13 年 3 月 30 日、油脂工業会館で開催した。委任状出席を含め 113 名の代議員の出席を得て議案を審議した。12 年度事業報告、監査報告、13 年度事業計画、名誉会員の推戴および平成 13 年度役員を選任等が審議され、いずれも原案通り承認・可決された。

引き続き表彰式が執り行われ、つぎの各氏が表彰された。

名誉会員に大城 芳樹氏が推戴された。

日本油化学会功績賞が池田 和夫氏に贈呈された。

平成 12 年度日本油化学会賞等が次の各氏に贈呈された。

- ・学会賞受賞者 名古屋大学物質科学国際センター 今栄東洋子 氏
帝京大学医学部 島崎 弘幸 氏
福岡大学理学部 杉原 剛介 氏
- ・進歩賞受賞者 大阪大学大学院工学研究科 木田 敏之 氏

総会に引き続き、懇親会がルビーホールで開催され、70 余名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 12 年度一般会計・特別会計決算案および平成 13 年度同予算案、平成 13 年度運営委員、各業務委員・専門部会長・支部長等の選任、日本油化学会功績賞および日本油化学会賞等の選定、次々年度年会開催地の選定および実行委員長を選任等、重要案件について審議決定した。

出席理事 延 75 名、委任状提出理事 延 18 名、出席監事 延 12 名

2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会 7 回、運営会議 5 回、名誉会員等との運営懇談会 1 回 がそれぞれ開催された。

業務委員会は延 60 回開催されたが、各業務委員会の開催数は次のとおりである。

総務、定款細則改訂委員会	5 回	役員候補者推薦委員会	2 回
財務委員会	2 回	学会賞選考委員会	2 回
企画・部会統括委員会	6 回	功績賞推薦委員会	2 回
国際交流委員会	1 回	規格試験法委員会(含小委員会)	12 回
編集委員会	6 回	若手の会委員会	4 回
50 周年記念事業委員会	6 回	マスターズクラブ幹事会	4 回
界面活性剤評価試験法委員会	6 回	E ジャーナルワ - キング G	2 回

「Journal of Oleo Science」および「オレオサイエンス」の発行により、編集委員会は 2 つに分かれたが、JOS 部門編集長会議は E-mail 会議で行っているため、開催回数にカウントされていない。規格試験法委員会は、NMR による多価不飽和脂肪酸分析法を成文化し、基準油脂分析試験法の英文化について検討する等に加え、基準油脂分析試験法講習会を新たに開催した。50 周年記念事業委員会は、実行委員会 3 回、50 年史小委員会 3 回がそれぞれ開催され、記念事業の準備が進められた。新たな活動として、界面活性剤評価試験法の出版計画が進められ、また会誌の電子化をはかるため E ジャーナルワーキング G がスタートした。マスターズクラブ

幹事会は設立の準備を含めて4回開催し、活動基盤を築くことができた。

3 事業報告

3.1 専門部会等

専門部会等による講演会・セミナー等の行事は延 27 回開催され、参加者数は延 1738 名を数えた。講演いただいた講師の先生方は延 128 名であった。

・専門部会	開催回数	19 回	参加者数	延 1215 名
・フレッシュマンセミナー	開催回数	2 回	参加者数	延 273 名
・基準油脂分析試験法講習会	開催回数	1 回	参加者数	79 名
・若手の会	開催回数	2 回	参加者数	延 112 名
・マスターズクラブ	開催回数	3 回	参加者数	延 59 名

3.2 支部活動状況

(1) 支部委員会開催状況

- ・関東支部 常任幹事会 3, 幹事会 1, 事業企画委員会 3, 見学会 1, 交流会 1
- ・東海支部 常任幹事会 4, 役員会 1, その他委員会 3
- ・関西支部 常任幹事会 5, 幹事会 3,

(2) 支部による講演会・セミナー等の行事開催

支部による講演会・セミナー等の行事は延 16 回開催され、参加者数は延 830 名、ご講演いただいた講師の先生方は延 57 名であった。

・関東支部	開催回数	4 回	参加者数	延 269 名
・東海支部	開催回数	5 回	参加者数	延 206 名
・関西支部	開催回数	6 回	参加者数	延 366 名

3.3 日本油化学会誌発行状況

(1) 「Journal of Oleo Science」誌

2001 年 1 月号より、日本油化学会誌の題号を変更し、オリジナル論文中心の英文学術誌に衣替えして発行した。

第 50 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 1052

掲載内容	報文・ノート・速報	英文 77 件, 邦文 38 件	791 ページ
	総説	英文 10 件	92 ページ
	その他記事		91 ページ

(2) 「オレオサイエンス」誌

2001 年 1 月号より、学術的啓発と情報を中心とした情報誌として新たに刊行された。

第 1 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 1652

掲載内容	総合論文・総説	55 件	576 ページ
	入門講座	19 件	148 ページ
	研究文献抄録	352 件	68 ページ
	国際油脂情報	525 件	161 ページ
	会務・会告等		297 ページ

3.4 日本油化学会年会

藤本健四郎実行委員長を中心に実行委員会を組織し、関東支部、各専門部会の協力のもとに準備・開催した。本年会より、シンポジウムおよびランチョンセミナーを同時に開催することになったが、滞りなく、盛況裡に終えることができた。

期 日：平成 13 年 10 月 4 日（木）～5 日（金）

会 場：仙台国際センター

内 容：

参加者総数	4 8 1 名
講演件数	1 9 3 件
・特別講演	1 件
・教育講演	2 件
・受賞講演	4 件
・一般講演	1 2 0 件
・ポスター発表	3 9 件
・シンポジウム	1 7 件
・ランチョンセミナー	8 件
・若手の会講演	1 件
・マスターズクラブ	1 件

懇親会：平成 13 年 10 月 5 日（金）

仙台第 2 ワシントンホテル 2 0 3 名

第 10 回 JOCS オイルカップスポーツ大会 10 月 3 日

テニス：仙台キリンスポーツクラブ 参加者 1 4 名

ボーリング：勝山ボーリングクラブ 参加者 2 4 名

スポーツ大会終了後、両者合同の懇親会が設けられ、参加者の交流を一層深めることが出来た。なお、大場前会長より新カップが寄贈され、成績優良者の表彰に華をそえた。

3.5 マスターズクラブ

マスターズクラブを 6 月に創設し、初代代表に早野茂夫名誉会員、副代表・幹事に小林陽信氏を選任した。55 歳に達した会員をメンバーとし、会員相互の親睦を図るとともに、会員の知識、経験、知恵を役立てる機会を探求する。それらの活動が当会のさらなる発展に寄与することが期待される。

3.6 創立 50 周年記念事業

第 4 版「油化学便覧 - 脂質・界面活性剤」が、平成 13 年 11 月に発行された。市民フォーラムを、名古屋(4 月)、酒田・鶴岡(5 月)、鳥取(6 月)、大阪(7 月)、東京(8 月)に、それぞれ開催すること、記念講演に江崎玲於奈氏と北野 大氏の出講承諾を得たこと、50 年史「日本油化学会 50 年のあゆみ」を会誌オレオサイエンス 9 月号に掲載すること、記念募金を行うこと等が決定した。

3.7 JOCS/AOCS ジョイント・シンポジウム (JS2004)

日米油化学会のジョイント・ミーティングは、テーマを設けたシンポジウムの形式で行うこと、2004 年にアメリカで開催することが決まっている。組織・企画委員会(二木鋭雄委員長)、

実行委員会(和田 俊委員長)が設置され、準備を進めることになった。